

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	○	介護相談等、要望があれば出向くことも考えている。催物や老人会等にホームとしての発信もしていきたい。
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		各入居者に対して、目標に沿って支援させていただくことを伝えている。
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		文章は押印をもらっている。
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	○	最近では、畑でとれた野菜や苗を頂くこともあるが、日常的なつき合いや気軽に来ていただける様にしていきたい。催物への招待など。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	○	地域推進会議を開催していく中で、理解を得ていきたい。催物への招待など。

グループホームここから王寺町(そよかぜ)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	老人会や自治会等の情報不足もあり、地域貢献していききたい気持はあるものの、実現されていない。	○	行政の指導もいただきながら、ホームとしての発言もしていく。 (介護相談等、要望があれば出向くこともしていきたい)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	認知症高齢者グループホームに関する法令の意義を理解し、全体会議や朝の申し送り等にて、意見を出し合い、方向性を出している。		日々の業務の中で、改善についての意識は全員が持っている。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームとしては、家族会の代表も決定し、会議の準備はしているが、町との日程調整ができず、会議の開催はしていない。	○	まず、初回の地域推進会議を開催する。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議は、初回2月に開催の予定だったが、市町村との日程がつかず、5月に開催の予定。		家族会の代表の選出も行き、日程連絡待ち。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現入居の方々には必要なく、以後必要となれば制度の利用も考えていく。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は、今までに虐待防止について学んでおり、日々の業務においても常に注意している。		当ホームにおいては、虐待はないが機会があれば、研修会等に参加し、更に防止に努めていく。

グループホームここから王寺町(そよかぜ)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約書・重要事項説明書は、1項ごとに説明し、疑問等は質問に応じ、理解・納得・安心していただいている。</p>	<p>現時点ではトラブル、クレームはない。</p>
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ホーム長、職員はなるべく利用者の中に入り、意見や不満等の引き出しに努力している。</p>	<p>意見等言いやすい雰囲気になるよう、傾聴や受容の姿勢を心がけている。</p>
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>定期的に具体的に伝えている。 金銭については、毎日明細書を家族に交付している。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族が気がかりなことや意見等を、職員やホーム長に気軽に伝えたり、相談できるようにしている。</p>	<p>定期的な声かけは、面接時に行っている。</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>運営方法や入居者の受け入れ、入居中の問題等は常に意見を聞いている。</p>	<p>職員から各主任に意見を伝え、常に職員間の意見を取り入れている。</p>
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>毎日のシフト確認や、状況に合わせての変更など状況を把握している。</p>	<p>報告や連絡、又は相談については口頭や連絡ノートでやりとりをし、また、申し送り等により把握している。</p>
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>離職は時折あるものの、定着率は安定している。</p>	<p>離職による不安感を与えないように常に信頼関係は築いておきたい。</p>

グループホームここから王寺町(そよかぜ)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修は、機会があるごとに受講しつつある。	認知症ケアに適した人材育成に努めていきたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	機会があるごとに他事業所への訪問もしつつある。	ネットワーク作りはとても大事なことなので、取り組んでいきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職場外での食事会を設け、個人個人の思いや意見を聞くように努めている。	シフト上全員揃うことが出来ないので、できる限り全員と話ができるように機会をつくっていきたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	定期的に面談をもち、個人の目標や資格取得等の話をしている。	研修や勉強会を定期的に取り組んでいきたい。
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	一日の始まりとし各居室を訪問し、顔を見て「何か不安なことはないですか？」と声かけをしている。	訪問することにより、問題点や体調のことも確認にしている。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	面会時は必ず現状の説明等を報告し、相談があればその場で聞いている。	比較的家族の方も気軽に声をかけて下さるのでコミュニケーションはできている。

グループホームここから王寺町(そよかぜ)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他事業所やネットワークを利用し、希望に合ったサービス提供ができるように努めている。		ネットワーク作りの強化。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所希望でもまずは体験入所から始めていただき、その間に信頼関係を築き馴染めるようにしている。		体験入所から本入所となるので、本人や家族の方も安心し納得されている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員の都合に関係なく、傾聴・受容をし計画に沿った内容で支援をしている。		1対1の介護が思いのほか困難な時もあるが、極力出来るように努めたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族との連携はすぐに行うようにしている。本人や家族と相談をし方向性を定めている。		家族との関係も良く、頻繁に報告や相談をしながら進めている。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	誕生日会には家族も参加して頂き、一緒に食事や催物にも参加していただいている。受診については基本的に家族と行き、変化等の確認をしていただいている。		入居者と家族との食事で外出することも企画中。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や近所の方々の面会も良くある。気になっている事や場所へはドライブがてら良く行っている。		手紙を書いてポスト・インや友人が来る時は、お菓子を買いに行くとの申し出もあり、快く受けている。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	最近では居室間での行き来がありお茶を飲んだりされている。トラブル発生のないよう見守っている。		テレビの番組によってはリビングのテレビを皆で見ることも度々あり、このような雰囲気の時には1人でも多く来られるよう声をかけている。

グループホームここから王寺町(そよかぜ)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	介護相談等あれば、必ず受け入れている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者一人一人が自分で決めたり希望を表現することを大切にし、それを促す取り組みを行い自己決定できるよう支援している。		自己決定できない場面は、職員が助言で促す。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの情報や日常の会話から生活歴は把握できる。その人らしい暮らしの支援ができるように努めている。		その人らしい暮らしや尊厳を支えられるようにしていきたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	個人の状態に合わせ、日常的に掃除や食事取りに参加していただいている。その人その人にあった内容で一緒に行う。		庭の畑に季節の花や野菜を作って下さるのも一つの事例である。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員には入居者の方の当番を決めていて、日常の変化を把握するようにしている。何かあれば家族と相談し、その時に合った介護計画の変更や課題等を明確にしている。		変更や新たな課題が生じた時は、家族と担当職員、ホーム長、ケアマネージャーでケア・カンファレンスをすぐに開催し検討することになっている。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	職員には入居者の方の当番を決めていて、日常の変化を把握するようにしている。何かあれば家族と相談し、その時に合った介護計画の変更や課題等を明確にしている。		変更や新たな課題が生じた時は、家族と担当職員、ホーム長、ケアマネージャーでケア・カンファレンスをすぐに開催し検討することになっている。

グループホームここから王寺町(そよかぜ)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・介護支援経過表等センター方式に記入している。 状態の変化とともに計画の見直しを行っている。 ・ホーム日誌の記録をしている。		入居者の方々には職員が1人ずつ担当しているので変化を把握できる。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	必要に応じて本人、家族との話し合いをして行っていく。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	図書館の利用や町の文化祭等に参加している。		職員からの誘いによって、外出の機会を作っている。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要性があれば行っていく。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	協働は現在していないが、必要に応じて行っていきたい。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームのかかりつけ医に、電話または直接伺って相談や助言、受診等を行ってもらっている。		症状や投薬等の指示はすぐに電話で行い、間違いのないようにしている。

グループホームここから王寺町(そよかぜ)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		バックアップ体制（総合病院）の医療機関はある。
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		入居の際、急変時における家族、本人の意向は書面にて聞いている。
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		現在、事例はないが、ダメージ防止には努めたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は一人一人をしっかり把握しており、その人に合った言葉使いや対応をしている。 記録等での名前はイニシャルを用いたり、記入も工夫している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している	支援を行う中で自己決定は大事なことなので、助言をしながらコミュニケーションに心がけている。	いろいろなコミュニケーション技法を用いて支援している。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間も決めておらず、それぞれ起床される。 日中も掃除をしたり、自室で趣味を生かされる人もおり、皆でレクリエーションをする時もある。 その日によっては外出もするが、極力希望を尊重している。	買い物をしたい人や外出したい人からの申し出があるので、希望・要望には答えている。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	起床時、その日の洋服は本人の決定を促しコーディネートをする。 化粧をする人は、朝食後声かけや見守りにしていただく。 理容・美容については訪問美容を利用している。	訪問美容の時期は、本人の希望を確認し、依頼している。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その人の出来る部分、出来ない部分で準備や配膳、片付けをしている。 時間になったら「手伝いましょうか？」と積極的に台所へ来る人もいており、毎日良い雰囲気である。	野菜を切る人、料理を作る人、後片付をする人といった役割的なものがある。 食後の食器洗いは各自で行っている。 外食も取り入れて利用者に見先を変えて楽しんでもらっている。全員外出できないので、行けない人の事も考えていきたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	男性1人の方は、必ず毎夕食時に晩酌をされている。 常に食べたい物や好みの物は聞いており、全員の希望に沿うよう取り入れている。	

グループホームここから王寺町(そよかぜ)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個々に排泄リズム表を作成し、自発的にトイレに行けない人には随時声かけや誘導を行っている。		リズム表を参考に昼間は極力失禁を減らすことを目標としている。また、下着を使用しており、おむつやリハビリパンツは使用していない。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	時間帯は日中を主に行っているが、希望によっては変更も可能としている。		事前の健康管理表やその日のバイタル、体調不良を確認しながら行っている。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人一人の睡眠パターンは把握しており、リズムを崩さないように心掛けている。		日中には外気浴や足浴、散歩やドライブを適宜に行っている。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人の心身の状況に応じた役割がもてるように支援している。		食事の野菜切りや配膳、お茶出し等は利用者皆で決めている。 お花を飾ったり畑の野菜作りなど、それぞれの好きな事をしてもらっている。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で財布を持っている人もいる。 日用品などがなくなってきたら、申し出があり一緒に買い物に行き支払は本人がしている。		申し出がない人達には職員から声をかけ、買い物へ行くようにしている。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日課の中に散歩を取り入れており、近所の方と話をしたり町の催物にも参加している。 外食も取り入れている。		目先を変えての食事も考え、好みを聞いて外食にも出かける。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	催物への参加支援や食事での外出支援、家族との外出は良くある。(日帰り温泉や外泊)		お花見や季節の移り変わりを感じてもらいたいので、ドライブにはよく出かけている。

グループホームここから王寺町(そよかぜ)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話の取次ぎや自らの電話は自由に支援している。 手紙の投函も受け入れ、日々行っている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族や知人、友人の訪問は頻繁である。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていない。 職員に対しての指導も行っている。		拘束を行わないといけない状態になった時は、プランの見直しや家族との話し合いを行い、また安全面に変わるものがない場合は考えていくこともある。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームの周りは交通量も多く、また柵のない線路もある為玄関の施錠はやむを得ず行っており、家族にもその旨は説明している。 居室の施錠はしてよい。		場面に応じて職員が付き添い、見守りができるように考えたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	各ユニットごとに職員の配置を決めており、役割分担も決まっていますので安全にも配慮している。		訪室したり常に所在の確認はしている。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	保管場所や管理方法は取り決めている。		夜間及び人員不在時には、施錠を行っている。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故はどんな内容でもヒヤリハットを記入し、全員読むことにしている。 会議で事例を通しての学習をしている。場面のシュミレーションを各自常にしていくように指導している。		てんかん発作のケースは数回あったが、初期対応・連絡は正しく行われている。

グループホームここから王寺町(そよかぜ)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変や異常のサインを見逃さないように指導している。事例が生じるたびに初期対応について学んでいる。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	会議等におけるのシュミレーションは各職員に指導している。避難訓練の実施は行っていない。	○	再度避難場所の確認をする事や避難訓練を実施すること。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居の契約時にリスクについての説明をし、書面にてサインをもらい理解を得ている。		言動を静止することはできないので、職員間での対応方法についての指導を行っている。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異常の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	その都度かかりつけ医や家族に連絡を取り、対応の相談や指示を受けている。		直ちに電話での連絡や報告を必ず行うようにしている。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	基本は医師の指示通りの服薬確認をしている。病気の既往歴については職員一人一人が把握できるよう心がけている。		全職員が全ての薬の内容までの把握はできていない。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	規則正しい排便誘等、運動への働きかけや水分の確保、また繊維物の多い食物摂取を心がけている。		服薬による便秘等は医師の指示を受けている。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	週に1度訪問歯科による口腔内チェックと衛生指導を受けている。ホームにおいても毎食後口腔ケアを行い、異常にも気をつけている。		義歯装着の人は全員洗浄剤を容器に入れ除菌し、明朝起床時に装着をしてもらっている。

グループホームここから王寺町(そよかぜ)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量や水分量は毎日記録に残しているので状態の把握はできている。 献立については職員全員でバランスを考えながら作成し、栄養面や配膳等にも気をつけている。		水分量は常に気にかけている。 その人に合った食事形態もあるので、状態に合わせて、見栄えや色合いも配慮しながら全量摂取に努めている。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	入居時に肝炎等の検査をしてもらい、明確化することになっている。インフルエンザは毎年接種している。 他発生時の初期対応について指導を行っている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板や包丁については毎日消毒を行っている。 食材は週3回の配達により新鮮な物を扱うよう注意をしている。 他調理用具、布きん等も消毒を行い管理している。		調理前の手洗い、消毒は毎日行っている。 衛生管理全般についての指導は行っている。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関前には、プランタに季節の花を利用者と植え、雰囲気作りをしている。 クリスマス時には、玄関の窓ガラスに飾りつけをし近隣の人たちに親しみやすい雰囲気作りに努めている。		家族や近隣の人たちとも交えて、いろんな意見等を取り入れ、親しみやすい関係を築いていきたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には季節の花を利用者と飾り、居間にはひな飾りをしたり家庭感を出している。 季節に合った物を置いたりして、利用者に季節の移り変わりなどを感じてもらえるよう工夫している。		それぞれ感じ方や好き嫌いもあり、極力全員で空間作りができるよう努めたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	庭には野菜や花畑があり、利用者が畑仕事を楽しめる場所である。 ベンチを置いて日向ぼっこをしている人もいる。 リビングから庭へは自由に気の向いた時に入出りができるようになっている。	○	庭の半分ほどをゲートボールが出来るよう計画中。

グループホームここから王寺町(そよかぜ)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や置物、また仏壇や信仰している対象物を居室に置いて、利用者が安心できるような空間を作れるよう工夫している。		全員が使い慣れた物を持ってこられているのではなく、必要最低限の人については、家族と相談して本人が居心地良く過ごせるような方向にもっていく。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	24時間換気システムと共用部分には珪藻土クロスを使用し、臭いがこもらないようにしている。		ごみ処理、汚物処理等の衛生面に関する取り扱いに注意している。 (速やかな除去、封入、保管、消毒等)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	要所に手摺の設置をしている。 浴槽・洗面台・食卓テーブル・椅子などの高さの工夫をしている。		食卓テーブルや椅子の高さを各利用者に合わせて調節を行っている。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	自立支援を目標に「できること」「できないこと」を判断し、見守りや一緒に行うようにしている。		場面作りや環境作りに配慮している。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダにはテーブルや椅子を置き、天気の良い日にはお茶を飲んだり日向ぼっこをして楽しんでいる。また、犬を飼っているので犬の好きな人は自由に触れてもらって癒しの一時にもなっている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

グループホームここから王寺町(そよかぜ)

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
		○	④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

一人一人に合わせた計画と尊厳や理念を常に考えた介護サービスの提供を職員一同心がけている。
 室内に閉じこもることなく、外出やドライブを多く行い季節の移り変わりを感じてもらえるよう工夫している。
 入居しても家族との絆が保てるよう定期的に報告や連絡をしてフィードバックしている。
 職員は「自分親」を入居させたいホームを目標に日々の業務に自己研鑽している。